



地域・駅・新幹線ニュースレター

はっしん！新青森

青森県立青森西高等学校
Aomori Prefectural Aomori West Senior High School



青森大学
AOMORI UNIVERSITY

2022年6月20日(月)
第32号 【FREE】

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR東日本新青森駅

青森大学社会連携センター



日本の鉄道開業150周年 東北新幹線開業40周年

「はっさり」再現列車、クイズラリーも

今年には日本の鉄道が開業して150周年、東北新幹線・大宮ー盛岡間が開業して40周年に当たります。7-9月には北東北三県観光立県推進協議会とJR東日本が「北東北三県大型観光キャンペーン」を開催するほか、7月初めには40年前を再現した塗装の新幹線や在来線特急の運行、7-8月には津軽地方を舞台にしたクイズラリーといった、多彩な催しが企画されています。

1872(明治5)年10月14日、新橋ー横浜間に日本初の鉄道が開通しました。

それから110年後、1982(昭和57)年6月23日に東北新幹線が開業しました。当初は大宮ー盛岡間の暫定開業で、上野ー大宮間に「新幹線リレー号」が運行され、1985年3月14日の上野開業まで続きました。盛岡ー青森間は特急「はっさり」が結びました。

7月2、3日には、東北新幹線40周年記念の団体専用臨時列車が運行されます。

新幹線リレー号がそのまま再登場するほか、開業当時の「200系」カラーを再現したE2系列車、同じ「国鉄色」

を再現したE653系列車が“復活”します。クイズラリーは「鉄道と夏祭り」がテーマです。青森駅と新青森駅、弘前駅、五所川原駅、観光スポットなどに設けられたコーナーで、台紙を手に入れ、各地をクイズに答えながら巡ります。正解数に応じて、最大9枚のオリジナル列車カードがプレゼントされます。詳しくは2次元コードのニュースリリースをご覧ください。

写真は三内丸山遺跡の南方を走る東北新

幹線「はやぶさ」上り列車

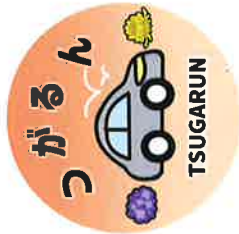


津軽線沿線の利便向上

デマンド型乗合タクシー運行

今別・外ヶ浜 7-9月

津軽半島の今別町・外ヶ浜町の一部で7～9月、「わんタク」「つがるん」(画像はJR東日本提供)という2種類の「デマンド型乗合タクシー」の実証実験が行われます。観光促進、



生活向上という2つの方向性から、地域の利便性向上と魅力発信、沿線活性化を図ります。

実証実験はJR東日本盛岡支社、JR東日本スタートアップ株式会社、株式会社電脳交通、有限会社奥津軽観光が実施します。ネットが電話で予約する仕組みです。

「わんタク」は「わんど(=私たち)のタクシー」の略で、日中の時間帯、30分間隔で予約ができ、JR津軽線・蟹田駅周辺と龍飛崎周辺を結びます。

また、「つがるん」は「津軽」と「つながる」にちなんだ名前

で、夜間に蟹田駅と今別・三厩方面を結ぶのが目的です。蟹田駅前の「ウェル蟹」を午後9時に出て、津軽線沿線を三厩宇鉄山地区まで運行します。

いずれも料金は中学生以上が1回500円、小学生以下や障がいのある人、75歳以上などの人が1回300円で、「わんタク」については町民限定の1カ月定期(3,000円)もあります。

詳しくは2次元コードのニュースリリースをご

覧下さい。



青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく③

「青森の歴史・文化を理解 魅力発信につなげる」

新青森駅などで活動する青森県立青森西高等学校「青西おもてなし隊」の顧問、清野耕司教諭に、青森ねぶた祭のルールについてご寄稿いただきました。

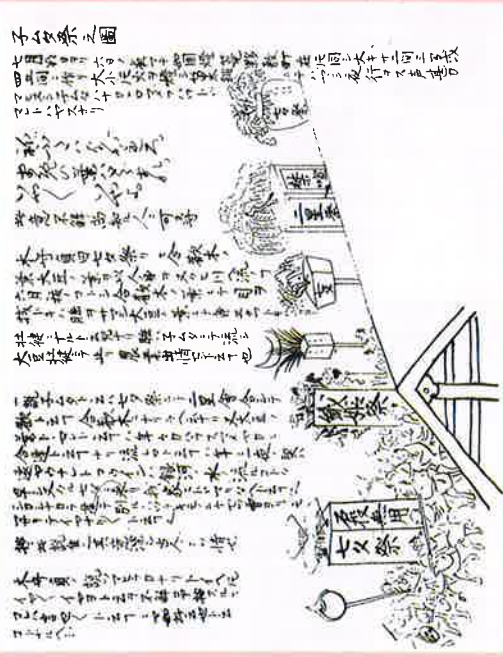
青西おもてなし隊は、夏の観光シーズンを控え、青森の魅力を発信するためにミニ金魚ねぶた作りに力を入れています。

おもてなしには、私たち自身が「ねぶた」を知ること大事なことだと考えています。「青森ねぶたはいづろから始まった祭なのか？」という当然想定される質問にしっかりと答えられるように、今回はねぶたの古い記録がどこまでさかのぼれるのかを紐解いてみましょう。

弘前では江戸時代中頃(1720年)に津軽5代藩主が城下で「眠流(ねむりながし)」をご覧になったという記録があります。「ねむりながし」は「ねぶたながし」そして「ねぶた」とつながる名称です。

青森では1730年に大浜(現青森市油川)の「ねぶた」の記録があり、「山(山車のこと)」「踊り子」「相撲」などの記述から祭の様子が少しだけうかがえます。

1788年に弘前藩士が描いた「子ムタ(ねむた)祭之図」



には7、8人に担がれた大きな四角い灯笼が町を練り歩く様子が見えます。

江戸時代末期のある日記には、20数年にわたる青森ねぶたが記録されています。激動の幕末を反映して、藩からねぶた差し止めの沙汰(中止命令)が幾度となく出されるなか、ほぼねぶたは行われ町名主(各町内会長)が謹慎の処罰を受けるなど、やめろと言われてもやめられない青森人のねぶた愛を彷彿とさせます。

江戸時代から今日まで、ねぶたのなかった年は片手で数えられるほどでした。今年は3年ぶりの青森ねぶた祭です。脈々と受け継がれる郷土の誇りを胸に青森の魅力を発信します。

写真左下は「子ムタ祭之図」(国立公文書館内閣文庫)。

写真右上は2020年夏の「青西おもてなし隊」の活動

三内丸山遺跡 堅穴建物の広がり確認へ 30年目の発掘調査「南の谷」付近

国の特別史跡・三内丸山遺跡で10月まで、2022年 ホームページから引用）＝を挟む2地点で、堅穴建物跡などの発掘調査が行われています＝写真右上。遺跡の南側を

東西に走る「南の谷」＝写真左下（三内丸山遺跡センターの



三内丸山遺跡は江戸時代から土器などが出土することで知ら

れていました。

1992～94年、県営野球場の建設に伴い大規模な発掘調査が行われ、「6本柱」など貴重な遺構や遺物が相次いで出土したため、保存されることになりました。今年、この大規模発掘開始から30年目の節目に当

たります。

野球場の建設予定地や都市計画道路の建設予定地からは、縄文時代中期中葉（今から5,000年前）の堅穴建物跡が見つかっています。

今年の調査は、これらの建物跡がどこまで、どのように広がっているのかを確認することが主な目的です。

ミナペルホネン／皆川明 つづく 青森県立美術館 7月16日から企画展

デザイナー・皆川明（1967～）が設立したブランド『ミナペルホネン』を紹介する企画展「ミナペルホネン／皆川明 つづく」が7月16日（土）から10月2日（日）まで、青森県立美術館で開かれます。

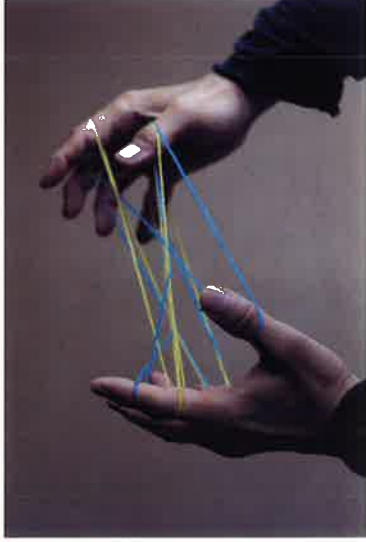
ミナペルホネンは流行に左右されずに長年着用できる、普遍的な価値を追求した「特別な日常服」をコンセプトに、独自のものづくりを続けてきました。青森県立美術館のユニフォームも同ブランドです。

1995年に前身となるブランド「ミナ」を立ち上げ、ファッショ

ンを起点にインテリア、食器など生活全般、さらにはホスピタリティを基盤とした領域へ活動領域を広げてきました。

企画展では、ブランドの時間的な継続性や、モノ・人の連鎖など多義的な意味を持つ「つづく」をキーワードに、生地や衣服、インテリア、食器などを展示します。加えて、デザイン原画、映像、挿絵などを通じて、創作の背景に迫ります。美術館前広場にも屋外作品が設置されます。

©Yoshihiko Ueda



"metsä"2012→SS
photo: Yasutomo Ebisu

入場料は一般1,500円、高校生・大学生1,000円、小中学生は無料。詳しくは同展特設サイト（2次元コード）へ。



北海道長万部高校

濱田校長が着任

青森との交流に意欲

青森西高校とつながりのある北海道長万部高校に今年4月、濱田哲也校長が着任しました。同校は2031年春に開業予定の北海道新幹線・長万部駅のデザインコンセプトづくり

に携わり、2021年夏には新青森駅などを視察するとともに、青西おもてなし隊と交流しました。

濱田校長は大阪市出身で国学院大学（東京）を卒業後、

道南の上ノ国高校（上ノ国町）で教員生活をスタートさせました。その後、函館市や札幌市、稚内市などの高校の勤務を経て、22年ぶりに道南に戻りました。

「青函トンネル開通の年に採用となり、寝台特急『日本海』に乗って上ノ国高校に着任しました。教員仲間と弘前城の夜桜を見たり、浅虫温泉へ懇親会に出掛けたり…。函館の高校

生は青森市内の大学や弘前大学に多数、進学しています。今年の抱負は「地域（長万部）を知る、地域に学ぶ、地域に貢献する」といい、「何事にも怖れずチャレンジしたい」と、青森との交流にも意欲的です。



見学時間 9:00～17:00（入場は開館の30分前まで）
（6月1日～9月30日は18:00まで）

休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日、12月30日～1月1日）

観覧料 一般410円（330円）／高校・大学生等200円（160円）／中学生以下 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金・展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット呈示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>

お問合せ

縄文＝芸術

三内丸山遺跡センター

この遺跡は歩いて見ると、縄文時代の生活が感じられる。縄文時代の生活が感じられる。縄文時代の生活が感じられる。

青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）

休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）
※企画展開催時、展示替え等により変更する場合があります。

観覧料 一般510円（410円）／高校・大学生300円（240円）／小学生・中学生100円（80円）
※（ ）内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金・展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット呈示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>

お問合せ

新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約20分・300円、タクシー（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分

Facebook ページ

Instagram アカウント

ネット情報

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF版を青森大学社会連携センターのFacebook ページに掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。
☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部

櫛引素夫 電話 017-738-2001 内線 731

shin-aomori@aomori-u.ac.jp

FB ページ

Instagram

青森大学 社会連携 センター